教育実践研究

# 美術館展示を活用した教育活動の有効性

石　井　龍　太

**要　旨**

城西大学は埼玉県内で唯一美術館を有する大学である。リベラルアーツ教育やアクティブラーニングが注目される現在，美術館を教育の中に位置づけることで有効な学びの場を生み出せると期待される。

2021 年夏，筆者は琉球国の王城であった首里城をテーマにした展示を企画し，学生たちと運営するゼミ活動を行った。そしてこの活動が学生たちにどの様な教育効果を及ぼしたのか，アンケート調査を実施した。結果，学生たちの半数以上がこの活動の内容，教育効果を認めており，歴史文化的知識の深まりとコミュニケーション能力の獲得に効果が認められた。

キーワード：美術館，展示，首里城

## 1. はじめに

城西大学坂戸キャンパスには，正門を入ってすぐ正面に美術館「城西大学水田美術館」がある。埼玉県内で唯一の大学が擁する美術館である。

筆者の所属する経営学部には，企業や行政，環境，スポーツ，地域といった分野に興味を抱く学生が集まることから，その多くは美術館や博物館といった文化施設には縁遠く，それまでほとんど行ったことがないばかりか，自主的に赴くこともない，という学生ばかりである。一方で興味関心がない訳ではなく，チャンスがない，あるいは敷居が高く入れない，という食わず嫌いの学生も存在する。文化論はじめ教養科目の受講者数は多く，潜在的なニーズはあると考えるべきであろう。

また全国的にリベラルアーツと呼ばれる教養の学びが改めて重視されるようになり，さらにアクティブラーニングと総称される学びの手法も重視されている。美術館を使った学びは，単に展

示を見学するというだけであっても，この両者を兼ね備えた有効な学びの場となる可能性を持っている。さらに進めて，展示活動に運営側として参加することで新たな学びの可能性を拓けるのではないか。

筆者は 2019 年来，ゼミ生たちと共に美術館活動に参加して来た。これは上述した新しい型式の教育実践を大きな目的とすると共に，自身の研究活動の一環と位置づけることも加え，両者を同時並行で実施するという欲張りなものであった。展示会として 4 回（表 1），キャンパス内に設けた 2 か所の小展示「モバイルミュージアム」では 2019 年来頻繁に展示内容を交換して来た。

本項ではそのうちの一実践例として，2021 年夏に実施した首里城をテーマとした展示会を取り上げ，参加した学生の視点も交えて報告するものである。

**表 1**　石井ゼミ活動と連動した城西大学水田美術館の展示会

| 会　期 | 展　示　名 |
|---|---|
| 2020 年 12 月 7 日～12 月 18 日 | 地域表象の仮面文化　～ローカルヒーローの造形美～（図 1-3, 5） |
| 2021 年 7 月 5 日～16 日 | 城西大学地域連携活動報告展　開かれた大学にみるまちづくり，ひとづくり ── 地域共生・協創への取り組み ──（図 1-4） |
| 2021 年 7 月 26 日～9 月 3 日 | むんだすいぬやーぬ　首里城正殿の屋根（図 1-6, 図 2） |
| 2021 年 9 月 20 日～10 月 15 日 | 城西考古 |

## 2. 実 践 内 容

### 2-1. 城西大学水田美術館の概要

城西大学水田美術館は，城西大学の創始者である水田三喜男氏が生前に蒐集した浮世絵コレクションを母体としている。浮世絵の鑑賞とともに，日本の文化の発展に寄与することを目的に，1979 年 3 月に水田記念図書館棟 8 階に創設された。水田コレクションは浮世絵を中心に 200 点余りからなり，浮世絵の発生期から近代日本画まで幅広く，貴重な写楽作品を 9 点所蔵する（城西大学水田美術館）。またコレクションの拡充は，浮世絵を中心に現在も継続されている。

現在の美術館建物は，城西大学創立 45 周年記念事業の一環として 2011 年 12 月に開館した（図 1）。設計は，ニューヨークを基盤とする Studio SUMO と，株式会社大林組が担当した。両者による「城西大学経営学部棟」（2008 年）はアメリカ建築家協会 NY 支部デザイン賞 2008『教育施設部門賞』を授賞している。Studio SUMO 設立者のスニール・ボールド氏（イェール大学），ヨランダ・ダニエルズ氏（コロンビア大学）はいずれも姉妹校の城西国際大学の客員教授であった（城西大学水田美術館 2011　肩書は当時）。

建物には，大学正門に入口が向いたスロープ通路（図 1-2）がらせん状に取り巻いており，さ

1

2

3

4

5

6

**図 1**　城西大学水田美術館の様子

1. 外観　　2. スロープ通路
3. ギャラリー 1（「地域表象の仮面文化」）
4. ギャラリー 2（「城西大学地域連携活動報告展」）
5. 多目的ホール（「地域表象の仮面文化」）
6. 視聴覚スペース（「むんだすいぬやーぬ」）

ながら迷路を思わせる。来館者は，スリットから自然光が差し込むこの薄暗いスロープ通路を通って入館する。建物内部は，2 階に来館者受付とギャラリー 1（図 1–3），ギャラリー 2（図 1–4），1 階に展示も可能な多目的ホール（図 1–5）と，モニターを設けた視聴覚スペース（図 1–6），事務室等が配置される。3 つの展示空間は規模，照明をはじめ大きく異なる。Studio SUMO は，正門前にある水田美術館を大学への入口と位置づけ，「社会において芸術が果たす教育・文化的役割に対する大学としての深い認識と関わりを示すもの」「大学，坂戸のコミュニティーおよび埼

玉県エリアにおける「文化的ハブ」となることを期待」するとしている（水田美術館 2011）。また大林組の大西宏治氏によれば，水田美術館は「大地のプレートがめくれ上り，ロール状に巻かれたコンクリートシェルの中に 3 つのギャラリーを内包した」構造であり，「ステップ状に展開する空間構成により，様々なシークエンスが楽しめる建築」となっている（城西大学水田美術館 2011）。そしてスロープ通路は，「スリットから差し込む光と影が訪れる人を印象的に迎えて」くれる演出装置とされている（城西大学水田美術館 2011）。

### 2-2. 展示会の概要と開催までの経緯

本稿では，2021 年 7 月 26 日（月）〜9 月 3 日（金）に水田美術館ギャラリー 2 にて開催された『むんだすいぬやーぬ　首里城正殿の屋根』展での活動を取り上げる。実施に当たっては，沖縄県立博物館・美術館の共催，沖縄タイムス社の協力を得られた。期間中には，展示会場での解説，さらに講演会も実施された。

本展示は，コンセプトとして，世界遺産にも登録された首里城正殿の実像を探ることを掲げた。そして発掘資料，文献資料，古写真，絵図等の多様な資料を手掛かりに学際的に展開することを意図した。特に発掘調査によって 7 期にわたる基壇が確認されたことを踏まえ，さらに琉球国解体後に兵舎や役所になった時期，国宝指定され再建された時期，沖縄戦による破壊と「戦後復興のシンボル」として再建された時期を加え，10 期の変遷を追う構成となった。

そしてそれぞれの時期の具体的な建物景観を復元してイラスト化し，特に赤一色と思われがちな屋根景観が様々に変化してきたことを，具体的な出土資料の展示も行って来館者に示すこととした。色にまつわる展示であることから，一部の展示資料は所蔵先の了承を得た上で，ケースをかけずに展示した（図 2-3, 4, 5）。

本展示は元々，2019 年 11 月の水田美術館運営委員会の議場で，筆者が琉球史を専門とする研究者であることから，白幡晶館長（当時）より提案された。首里城火災（2019 年 10 月 31 日夜）が発生し，首里城がにわかに全国的な注目を集めるに至ったことが背景にある。展示は翌年 2020 年夏に実施できるよう調整が行われ，筆者も首里城正殿に関する調査を本格化し，研究ノートを上梓した（石井 2020）。

ところが新型コロナウィルス感染症の流行が始まり，2020 年度は大学への入構禁止，美術館も当面閉館という状況に陥る。12 月から開館したものの，2020 年度に予定されていた展示会はそのまま翌年以降に持ち越しとなり，本展示会も 2021 年 7 月にようやく開催となった。この延長期間内にも多くの新たな情報が得られ，また地元沖縄県内でも首里城再建を巡る様々な動きがあり，単に企画を順延したのみならず情報の追加，更新がなされることとなった。

しかし実施期間の 7 月にはコロナ禍が再び勢いを増し，展示にも影響を及ぼした。予定してい

1

2

3

4

5

6

7

**図 2**　『むんだすいぬやーぬ
首里城正殿の屋根』展の様子

1. エントランス　　2.3. 展示風景
4. グスク瓦の展示　　5. 近世瓦の展示
6. 首里城火災の新聞報道（協力・沖縄タイムス）
7. 講演会（城西大学水田記念館）

た展示資料が，収蔵機関の立ち入り制限方針によって一部不能となり，急遽他施設からの資料貸出を行わざるを得なくなった。また既に実施されていた時間ごとの来館者数の制限と共に，展示解説にも人数制限がかけられ，さらに予定していた学生による展示解説は一部実施できないこととなった。

9 月 3 日の最終日に予定されていた講演会は特に大きな影響を被った。来館者数の制限が必要となるばかりか，沖縄県から来訪する予定だった講演者の県をまたいだ移動が不可能となってしまった。急遽 Zoom を用いて講演会場と沖縄県内の会議室をつなぎ，さらに会場には入れなかった方向けにオンラインでの同時配信も並行して行った（図 2–7）。

展示解説と講演会の模様は，終了後に YouTube を通じ動画が公開されている（城西大学水田美術館 2021a, 2021b）。大学授業のオンライン化と同様に，こうした展示内容のオンライン発信はその後の展示会においても継続して実施されている。特に遠隔地から講演者が参加できる型式の開拓は，今後の講演会の新たな発展に大きく寄与する成果だったと言えよう。

### 2–3. 展示会におけるゼミ活動

本展示会は，準備から会期中のイベント，撤収に至るまで，筆者が担当する 2 年生のゼミ「基礎ゼミⅡ」の所属学生 14 名が実質的役割を果たした。営利非営利を含めた多様なマネジメントを学ぶ学部として，基礎的な教養教育，かつ文化財を対象としたマネジメント活動と位置づけて実施した。

首里城という歴史的文化的かつ時事的な対象をテーマとした本展示に参加することは，城西大学経営学部の定めるカリキュラムポリシー（城西大学 HP）と照らし，教育内容として齟齬がないものと判断した。また運営に当たっては，首里城・琉球史に関する知識，同級生と協力して展示空間を作り，来館者に対応するコミュニケーション能力，運営全般において要求される臨機応変な対応力が要求される。一連の活動は，経営学部のディプロマポリシー（城西大学 HP）に合致した教育効果が期待された。

**城西大学経営学部のカリキュラムポリシー**

- 将来の幅広い進路に対応した経営学，マーケティング，会計の知識・技能・問題解決能力
- 経営学をはじめとする社会科学の基礎を広く理解し，社会や産業に関する事象をマネジメントの視点からとらえる能力
- 地域の行政や産業と連携し，地域社会の活性化に貢献する教育
- 大学における学修および生活やその後の人生を充実させるための初年次・導入教育，教養教育

**城西大学経営学部のディプロマポリシー**

- 幅広い教養とマネジメント（経営学，マーケティング，会計など）についての専門的知識
- 地域社会や国際社会で活躍するための基礎的能力（コミュニケーション・リテラシーとメディア・リテラシー）
- マネジメントに関わる問題や課題を自ら発見し，解決するための思考力・判断力・実践力
- 起業家精神（アントレプレナーシップ）をもち，社会や組織の中でリーダーシップを発揮し，価値を創造する能力
- 多様な人と協力し，市民としての高い責任感と倫理観をもって主体的に社会に貢献する能力

以下に，具体的な活動内容を時系列に沿って記す。

**基礎的知識の習得**

まず会期2か月前の6月から，首里城および琉球諸島に関する基礎的知識の習得を行った。中には高校までの修学旅行や家族旅行で実際に首里城を目にした学生もいたが，沖縄県に行ったことすらない学生も含まれていた。

知識習得に当たっては，初歩的内容の資料，書籍，論文等を割振り，内容をコンパクトに説明する資料作成と，パワーポイントによる発表を求めた。コロナ禍で対面型式でのゼミ運営が難しかったこともあり，Teamsを使ったオンライン型式も併用した。ゼミ生たちは単なる知識習得に留まらず，展示開始後はここで獲得した知識を基に来館者に説明しなくてはならないと繰り返し伝えた。結果としてプレゼン全体に緊張感が走り続けることとなった。

課題とした資料は以下の通りである（あいうえお順）。

石井龍太　2008年「沖縄の瓦」『南島研究』南島研究会，49：11-31
石井龍太　2020「首里城正殿の屋根変遷」『城西大学経営紀要』16：157-180
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー　2015『うちなー観光教本』6版
岡田輝雄編集総括　2019『甦れ！首里城　報道写真と記事でたどる歴史』琉球新報社
沖縄タイムス社　2019『報道写真集　首里城』
国営沖縄記念公園事務所編　2000『首里城が楽しく学べる首里城物語』
當眞嗣一　2020『琉球王国の象徴　首里城』新泉社

**展示作業**

基礎的知識をゼミ全体で共有した上で，実際の展示作業から学生たちに参加を求めた。大まか

1

2

3

4

**図 3**　ゼミ生による展示設営の様子

な展示構成や希少資料の作業は筆者が担当したが，パネルや資料の配置，展示物品の取り扱いは，美術館学芸員の指導の下で学生たちが担った（図 3)。なお感染症対策のため密を避ける必要があり，一度に展示室に入る人数を 4 名程度までに絞り，4 グループが 90 分交替で参加した。

この一連の作業は頭を使うというよりも，繊細さを伴う力仕事が基本であり，加えてバランス感覚や美的センスが要求されるものであったと言える。さながらコロナ禍で中止が続いていた学園祭の雰囲気もあり，教室での口頭発表に比べ学生たちは全体的に楽し気な雰囲気であった。また美術館や博物館に来館者として（しかもあまり興味のない来館者として）訪れた経験こそあれ，出迎える立場で展示を作る経験もまた面白がっている様子であった。

一方で，展示が完成に向かうに連れ，ここで来館者を出迎え，飛んでくる質問に答えなければならないという緊張感もまた，実感を伴って来た様子であった。

**会場係，展示解説**

学生たちの頑張りもあり，展示場は無事完成し，予定通り会期を迎えることとなった。水田美術館は土日祝日が原則閉館だが，会期が夏休み期間中であったことから，高校生と保護者に向け

たオープンキャンパスに合わせ週末に開館する日も多かった。

学生たちは，こうした来館者が多く見込まれる日時を選び，3名ずつが会場係として参加した。彼らはゼミ時間に学んだ知識を基に，来館者から飛んでくる質問に答えることが要求され，また展示場での迷惑行為が発生した場合には臨機応変に対応しなくてはならない。さらにオープンキャンパスに訪れた高校生や保護者から寄せられる質問には，道が分からない，喫煙所やトイレの場所が分からない等，展示と無関係な内容も含まれるが，会場係として展示場から離れることなく説明することを求められた。見知った構内であっても，口頭で説明するのはかなり難しく，こうした苦労も印象深く彼らの口から語られた。業務終了後には報告が義務付けられ，来館者からの質問があれば他日の担当者と共有し，筆者の指導の下で模範的対応を検討した。

さらに学生による展示解説を実施した。担当学生は開始2時間前に集合し，パネルを一から読み直し，特に説明が必要な個所には小さな付箋を貼って，リハーサルもそこそこに本番に臨んだ。時に口ごもりながらも，若い学生が必死になって解説する様子は，来館者から好意を持って受け止められていた（図4）。同様の試みは筆者が担当する他の展示会でも行っているが，クレームが来たことはない。コロナ禍が広がり，2回予定されていたうち後半の日程を中止せざるを得なかったのは残念であった。

1

2

3

**図4**　ゼミ生による
展示解説の様子

## 3. 学生アンケート

コロナ禍の逆境の中で，慣れない美術館活動に参加した学生たちは，そこから何を学び取ったのであろうか。筆者との談笑の中からも彼らが得難い経験を積んだことは読み取れたが，さらにアンケートを実施し，可能な限り客観的なデータとして記録することとした。

### 3-1. アンケートの内容

アンケートは，本活動が整合性を持つと判断した経営学部のカリキュラムポリシーとディプロマポリシー（城西大学 HP）に従い，本試みの教育内容と教育効果を問うた。それぞれのポリシーで一定の達成がなされれば，学生たちの目からも城西大学経営学部の教育活動として成立したということができよう。

それぞれのポリシーに対し，学生たちが担当した展示設営，場内係，展示解説の 3 項目がどの程度当てはまるかについて，5 段階評価を付けるよう求めた。また具体的な教育内容や教育効果について自由記載を求めた。所属ゼミ生は 15 名，回答率は 93%（14 人）である。

### 3-2. アンケートの結果

それぞれの項目について，集計した結果を以下に記す（表 2, 3)。

アンケート結果の平均値（表の太線部）は，教育内容，教育効果とも 5 段階中の 3 をやや上回る程度であった。評価が特に高かったのは，教育内容（表 2）における「地域の行政や産業と連携し，地域社会の活性化に貢献する教育」(平均値 3.93)，および教育効果（表 3）における「多様な人と協力し，市民としての高い責任感と倫理観をもって主体的に社会に貢献する能力」(平均値 3.85）であった。全体的に見たところ，著しい高評価とは言えないものの，学生たちはこの活動が経営学部内で行われることに一定の評価を与えていることがうかがえる。

個別にみると，項目によってかなりのばらつきがあり，それぞれの教育内容や効果についての評価が学生によって分かれることがうかがえる。評点全体の平均値が 4 以上の学生が 7 名おり，2 以下の学生は 3 名であった。学生たちの半数以上は，一連の展示活動の内容と効果を評価していると言えるだろう。

#### 学生からのコメント

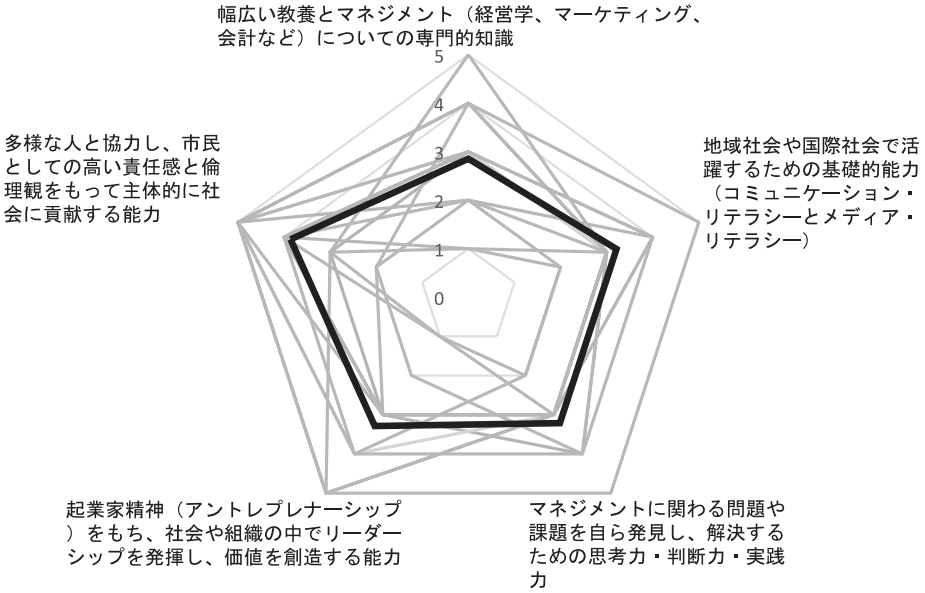
展示活動への参加から得られた学びについて，自由な記載を求めたところ，以下の様な回答が得られた。

**表 2**　展示活動の教育内容に関するアンケート

※太線は平均値

**表 3**　展示活動の教育効果に関するアンケート

※太線は平均値



- 首里城自体の歴史に関して理解していたが「屋根」に関しては何も知らなかった。調べていく内に首里城正殿の屋根に関心を持てたと考える。
- 首里城の重要性が理解できたからこそ燃えてしまって悲しくなった。
- プレゼン能力を養うことができた。
- 会場の警備が少し辛かったけど，説明したりすることができた。
- お客さんに解説をしたのがキツかったですが，楽しかったです。人前で話すいい経験になりました。
- 地域の人と場内係として関わることによって，コミュニケーション能力や思考力等を得ることができた。
- 人に説明する文章を自分で考える力。

大きく分けて，首里城への知識の深まりと，説明能力の獲得ができたという実感を得ていることがうかがえる。歴史文化に関する基礎知識の獲得と，獲得した知識の表現・説明の経験を積んだとすれば，大学 2 年生がなすべき学習として適切なものと言えるのではないだろうか。

## 4. 考察，小結

大学美術館という空間は，文化的な地域貢献という大学に求められる役割を果たし，また本学がどの様な存在であるかをユニークな形で発信することができる装置であるといえる。そして学内の学生や教職員にとっては，より純粋に身近に文化芸術に触れる場として機能するであろう。だがこれに加え，来場者として利用するだけでなく，運営者として参加することで，更なる教育効果を発揮することができることを確認した。

具体的には，一連の活動を通じ，城西大学経営学部の目指す人物を育てる教育活動として，水田美術館における展示活動への参加が有意義な内容と効果を伴うことを確認した。特に歴史に関する知識の深化と，対人コミュニケーション能力の獲得に役割を発揮できたと言えるだろう。前者は筆者が担当する歴史教育におけるアクティブラーニングの効果であると言える。後者はゼミ生同士で展示設営する団体活動と，来館者への対応があり，自由記述の内容を見る限り，学生たちにとっては来館者対応が厳しくまた達成感を伴ったと言えるだろう。

なお本学東京紀尾井町キャンパスには名高い化石博物館，姉妹校の城西国際大学には美術館が設置されており，城西国際大学では国際人文学部の学生を対象とした学芸員資格の取得が可能である。城西大学でも，関心を深めた学生が卒業後の進路に加えられるように，全学的な学芸員養成コースの設置も検討されている。学芸員は狭き門であり，資格取得がすなわち就職に結びつくものではないものの，強いあこがれを抱く学生は存在する。博物館・美術館運営から得られる学

びは幅広く，卒業後の多様な進路に応用することが可能であろう。美術館運営者としての学生参加が教育効果を発揮するのであれば，一ゼミ内での限定的な活動に留まらず，将来は資格取得を含めた全学的な教育に広げることを検討すべきであると考える。

## 引用文献

石井龍太　2020「首里城正殿の屋根変遷」『城西大学経営紀要』16：157-180

城西大学 HP 「教育目標・各種方針・ポリシー　2019（2020.4 入学者用）」
https://www.josai.ac.jp/about/ information/policy/index.html　最終閲覧日 2021 年 12 月 23 日

城西大学水田美術館　2011「新美術館の設計について」（オープニングセレモニー資料）

城西大学水田美術館 HP 「美術館概要」
https://www.josai.ac.jp/~museum/summary/index.html　最終閲覧日 2021 年 12 月 23 日

城西大学水田美術館　2021a「むんだすいぬやーぬ　首里城の正殿の屋根　展示解説【城西大学経営学部 石井龍太准教授】 城西大学水田美術館」
https://www.youtube.com/watch?v=sSg4FILSfK0　最終閲覧日 2021 年 12 月 23 日

城西大学水田美術館　2021b「展覧会「むんだすいぬやーぬ　首里城正殿の屋根」関連企画　山本正昭氏講演会「首里城の誕生　～首里城正殿周辺の建物跡からみる～」」
https://www.youtube.com/watch?v=xstx8fdeduk　最終閲覧日 2021 年 12 月 23 日

# Effectiveness of Educations on Art Museum Exhibition Activities

Ryota Ishii

**Abstract**

Josai University is the only university in Saitama Prefecture with an art museum. With the current focus on liberal arts education and active learning, Education at the museum will be an effective learning experience.

In the summer of 2021, I planned an exhibition of Shuri Castle, the royal castle of Ryukyu Kingdom, and managed this exhibition with my seminar students. As a result of the questionnaire survey of my seminar students, more than half of them acknowledged the educational content and effect of this activity, especially could deepen their knowledge of history and culture and acquire communication skills.

**Keywords:** Art Museum, Exhibition, Shurijo Castle Seiden